

第二地連新聞

第二地連一泊学習会開催

区移管から15年目を迎え



学習会の様子（埼玉屋旅館会議室）

発行責任	第二地連	編集責任	第二地連	東京清二	労働組	第二地	掃合連
発行日	2014年8月10日						
発行部	第48号						

7月5日（土）～6日（日）埼玉県草加市「埼玉屋旅館」にて第二地連一泊学習会を開催しました。

金子議長の挨拶でスタートし、実りある学習会にしていく為に、情勢を認識するとともに、情報の共有化を交えながら、これからの地連としての運動を構築していくと挨拶がありました。

当日は本部から染書記長がかけつけて下さり、一日目の講師をして下さいました。「現業合理化に抗して、品質の公共サービスを守るために」という題材

で講演をして頂きました。区移管から15年目を迎える単一労働組合としての役割、質の高い公共サービスを追求していく為に車付雇上問題を取り上げ、随意契約の問題や非正規労働者の課題を交えながら詳しく話をして下さいました。また、他都市の状況も含め、これからの各区の取り組み方や



講演で熱弁を振るう染書記長

交渉のあり方などアドバイス頂きました。夕食交流会では参加者一人ひとりが自己紹介・ひとことを言い、お酒を交えながら他支部の仲間と交流をおこないました。

二日目は各支部報告として、第二地連4区5支部の代表者から26年度作業・人員計画総括を報告し、地連としての総括を地連現業部

より報告するとともに全体で確認をしました。休憩をはさみ全体でのフリートークをおこないました。1日目の講演の質疑・地連に対する要望等が参加者から質問としてあがりました。その後、原田事務局長の全体集約、金子議長の団結がんばろうで地連一泊学習会を終了しました。

全体で33名の参加でした。

事務局次長東海林久



北 工 場 支 部



北工支部の皆さん（右が青木さん）

今回の学習会では、本部より書記長が経緯をされ区移管への経緯や職員団体と労働組合の違い・非正規労働者の問題点など、判りやすい資料を基に説明して下さいました。

自分なりに理解していたつもりでしたが、勘違いも多く正しい経緯や新たな問題点を提起して頂きたい大変勉強になる時間を過ごす事が出来ました。その後の交流会では他支部のぶつちやけた話も聞

流を深めていこうと思っ
ていますので、第二地連唯一の工場支部です
が宜しくお願いま
す。
最後に宿泊学習会実行委員の皆様、この様な充実した時間を提供して頂き有難う御座いました。

青木 一吉



文 京 支 部



質 問 を す る 橋 本 さ ん

初めて第二地連一泊学習会に参加した。場所は、「埼玉屋旅館」。何と小学校同級生の旅館じゃないか。また、久々に来た地元・草加は、結構変わっていったかな。つと、こんなことはどうでもいいか。

後日、質疑応答の時間があり、講演の内容とは関係ないが、北工場支部の方も来ていたので、長い物（竹ぼうき）や、布団・敷き物類が「なぜ工場搬入不適物」なのか質問してみた。工場支部の方から、「長い物は、ホッパに引つかかる場合があり、ごみがそこに詰まり、最悪緊急停止し復旧に一週間かかる」「布団・敷き物類は、階段状の焼却炉（北工場）だと燃えき

らずに、灰を貯める場所に転がりトラブルの原因になる」と答えていただいた。
このような学習会があると、普段疑問に思っていたことが聞けたりして、とても良いと思います。けど、エアコン20度設定（清孝さん）は勘弁してね。

橋本 良一



台東支部



台東支部の皆さん(左から2番目が黒河内さん)

今回、初めて第二地連一泊学習会に参加しました。一日目、本部の染書記長から講演があり、二日目は講演に対しての質疑応答及び第二地連・各支部の報告が行われました。

交流会の自己紹介では、緊張して中執らしい挨拶ができず残念でしたが、また参加したいと思えました。ありがとうございました。

黒河内 昭



荒川支部



荒川支部の皆さん(右から2番目が小野澤さん)

今回、第二地連一泊学習会に一般参加と言う形で初めて参加させていただきました。

この学習会に参加したことで荒川支部も新規採用を勝ち取るために、これからの課題をクリアして行くためにも、今まで以上に一致団結していかなければならないと痛感したと同時に良い経験をさせてもらいました。

小野澤 好記



北 支 部



支部総括の報告をする小野瀬さん

7月5日〜6日の2日間にわたり第二地連宿泊学習会が開催され、北支部においても8名が参加してきました。私自身、久しぶりであったので緊張の中、参加してきました。一日目の染書記長の講演では、「取り巻く情勢と取り組む課題」を講演内容に、区移管から15年目を迎え組合員の減少、正規職員に代わって車付雇上が進んでいる事等が問題にあげられた。また、私たちが取り巻く状況は厳しい中で良質な公共サー

ビスを維持していく事は簡単ではないが、清掃事業を維持していくために一層の努力が必要という話がありました。二日目は、各支部報告で、私も、皆さんの前に出て、緊張の中、北支部の総括の報告をしました。この学習会で学んだことを支部へ持ち帰り、明日からまた新たに支部、地連で一致団結、力を合わせて職場を守る運動を行っていきなさいと思った学習会でした。

小野瀬 修



団結ガンバロー!!

第二地連26年度予算人員闘争総括

○はじめに

第二地連内の当局だけではなく、23区的に見ても「退職者不補充」「数合わせの為の委託」という流れが基本になっている。移管から15年目に入り「清掃事業」に対する各区の違いが見えてきた。

○作業計画について

文京→計画の前半は25年度と同様。後半は小プ2台減

台東→計画は個別地域以外は25年度と同様。全域を12エリアに分けて、4月からは5エリア目の戸別収集化が始まった。個別地域は曜日配車をしているが、最初の戸別エリアは曜日配車見直し。

荒川→計画は25年度と同様。

北 →計画は25年度と同様。小プ3台が車付雇上に差し替え。

○人員問題について

文京は3年連続の新規採用3名を勝ち取ったが、欠員分は非常勤職員で対応。

台東は欠員分を臨時職員、非常勤職員で対応。

荒川は欠員分を車付雇上で対応。

北は指導班を増員。

○まとめ

文京支部が「24、25年度」に続き「26年度」も3人の新規採用を勝ち取った。3年連続というのは23区でも稀である。他の3区も新規採用を強く求めているが退職者不補充の壁は堅固だ。文京支部の闘いは、壁を壊すことに成功した。他の支部も壁を壊すには至っていないが、攻める手を緩めてはならない。緩めれば壁はさらに堅固になるだろう。なぜ近隣区なのに、このように大きく違いが出ているのだろうか。これを解明し、勝利するためには地連を最大限に使うべきではないだろうか。地連とは、当局との闘いで最大の武器になる「情報」の交換・共有が身近にできる場所である。また、一組当局の不安を煽るようなやり方に対抗するためにも地連・本部に結集していかなければならないのだ。

第二地連は4区5支部の小さな地連である。当局に対して「責任ある清掃事業」を認識させるために我々第二地連は、さらなる団結・情報の共有化を図り当局と闘っていくことが最重要である。